

# 大手川の改修事業

## 「大手川の護岸を考える！」ワークショップ

### ニュース

### 第2号

#### 課題を解決するためのアイデアを出していただきました！

京都府では大手川の改修事業を進めるにあたって、「宮津の歴史と自然を生かした安全で、心やすらぐ水辺づくり」を目標として、景観に配慮した護岸構造の検討や遊歩道の整備についてワークショップを開催し、参加者のみなさんと一緒に意見を出し合っていて考えていきたいと思ひます。

つきましては、第2回ワークショップが平成18年5月21日(日曜日)に開催されたので、その概要についてお知らせします。



さまざまな立場の人々が集まって、自由に意見を出し合い、互いの考えを尊重しながら、意見や提案をまとめ上げていく集まり(場)です。



#### 第2回ワークショップの概要

(18名の方が参加されました！)

参加された18名の方々が4つの班に分かれ、課題解決のためのアイデアを出し合っていました。

##### 開会

- ・開会のあいさつが行われました。

##### 第1回ワークショップの概要説明

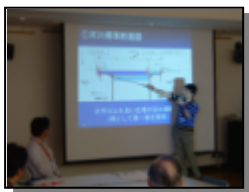
- ・現地調査による「いいところ(魅力)」「悪いところ(課題)」について、説明されました。



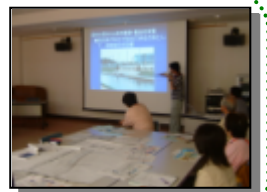
#### 第1回ワークショップにより出された意見について、具体的な事例や展開図面例を説明

前回ワークショップの意見に対する、説明や回答、及び治水上必要な事項(できること、できないこと)について、説明されました。

- <護岸等の構造説明>
- <その他質問事項などの回答>



「いいところ(魅力)」を活かし、「悪いところ(課題)」を解決するための、事例写真、護岸構造パターンなどについて、説明されました。



##### 参加者の関係づくり

- ・各班で、自己紹介が行われました。

##### 具体的なアイデアをだしてもらおう

- ・右岸側歩道部の構造や植栽、舗装をどのようにするか？



- ・歴史的景観に配慮した、護岸の構造などをどのようにするか？



- ・親水性と安全性をどう考えるのか？



##### 検討結果の発表

- ・班ごとに検討結果を発表しました。

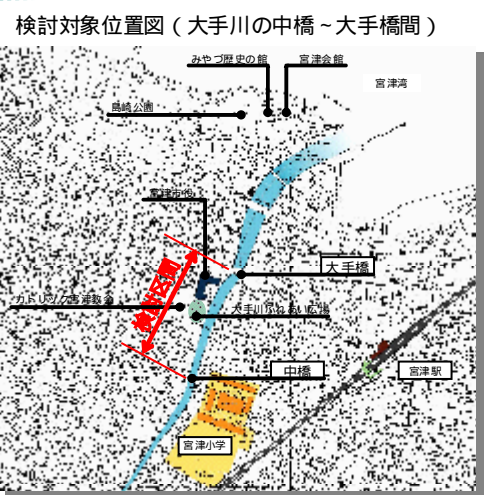
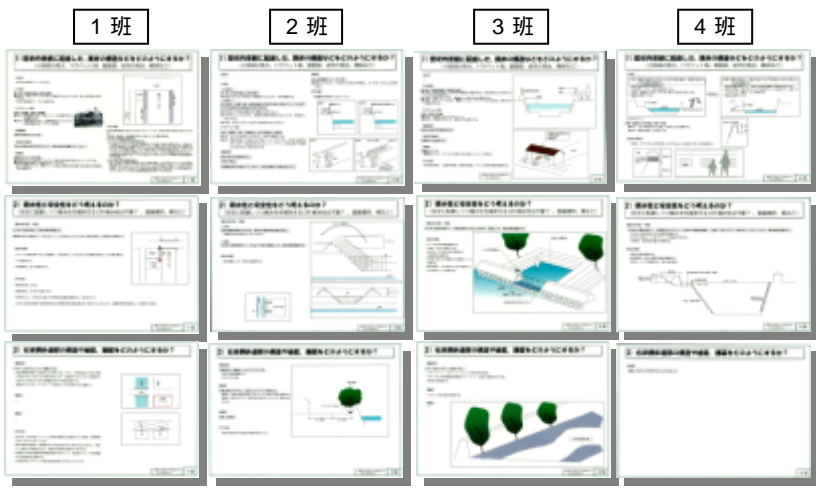


##### 閉会

- ・閉会のあいさつが行われました。

# 第2回ワークショップの結果概要

	1 班	2 班	3 班	4 班
小段	<第1案(小段が水面上に見える案)> ・小段に植栽(ハナショウブなど)を行う。	<第1案(小段が水面上に見える案)> ・水鳥が止まると、いきものにも景観にもよい。 <第2案もしくは第3案(小段が水面上に見えない案)> ・かつての城壁の景観に近くなる。 ・小段があると、ゴミがたまり、管理主体の問題や景観阻害、さらには、小段があると入りたくなり安全面から、無い方がよい。	<第2案(小段が水面上に見えない案)> ・小段があると、汚れて景観的に問題があり、子どもが入り危険。 ・小段が水面上にないと、昔の景観に合い、清掃しなくてよく、景観が第3案とあまり異なるない。 ・アンカーは、沿道住民に影響の恐れがある。	<第1案の変形(両岸に、歩道のように歩くことができる小段と、右岸にも出入りの出来る階段を整備する案。)> ・両岸を歩かせる。 ・小段を狭くしても、右岸に階段をつける。 ・小段高は、満潮時にも水につからないように出来るだけ高くする。 ・撤去可能な可動式の柵を整備する。
パラペット部	<右岸：石垣風> ・宮津城側であり、堀のイメージが強調できる石垣にする。 <左岸：白壁風> ・川沿いの家を隠すため、昔、裁判所にあったような白壁にする。	<右岸：白壁風> ・もともと城があった方で、城壁の景観にする。 <左岸：石垣風 or 下部石垣+上部格子> ・景観に配慮して石張りでH1.1mにする。 ・右岸の白壁を見せるために上部を格子にする。	<右岸・左岸とも白壁> ・右岸は、もともと城があった方で、かつてのイメージをつくり出す。 ・左岸は、お城のあった側ではないが、修景のため白壁にする。	(上記が困難なら) <第2or3案と第1案(右岸は小段なし、左岸は歩く事が出来る濡れにくい小段を整備する案。)> ・右岸は歩道があるので、左岸にも歩道の機能を持たせ、周遊性を創出する。 ・小段高は、出来るだけ高くしボードウォークもしくは舗装を行う。 <右岸：白壁風もしくは石垣> ・100年後を考えている。 <左岸：石垣> ・景観への配慮のため。
壁面部	<既存の石垣の石を再利用する。>	<既存の石垣の石を再利用する。>	<既存の石垣の石を再利用する。>	<既存の石垣の石を再利用する。>
視点	右岸の歩道は幼児が歩かないため、<視点を考慮する必要はない。>	幼稚園児は車で送迎されているため、<視点を考慮する必要はない。>	<白壁に小窓を付ける。>	<白壁に窓を開け、縦格子を付ける。>
橋部	<石造りのイメージ> ・中橋はもともと石造りであったので、四糸大橋の様な石造りのイメージにする。 ・歴史的景観に配慮した、和風イメージにする。 ・欄干に照明を入れ、歩道に同デザインの車止め兼用の低位置灯を整備する。	<木による和風イメージ> ・白壁に合うもので、大手橋からの見え方にも配慮する。	<石橋のイメージ> ・橋脚より上部で、かつての大手橋(めがね橋)のイメージを残す。	・
親水性の要・不要	<ふれあい広場を利用して親水空間を整備する。> ・水辺に近づくことができる階段により親水空間を整備する。	<白壁整備を優先させ、親水階段は優先順位が低い。> ・上流側で親水空間が整備されるなら、今回検討区間には必要ない。 <ふれあい広場を利用して、川に沿って降りる階段により、親水空間を整備する。> ・パラペットを越えて出入りする。	<ふれあい広場を利用して、水面を広場内に引き込んだ形状で、階段により親水空間を整備する。>	<ふれあい広場を利用して、小段部分からパラペット上部までの階段を整備し、公園レベルをパラペット高さまで上げることににより、親水空間を整備する。>
安全対策	・事故が起こるものであることを認識し、川に出入りする場所があるとしても、柵に鍵をかけて管理する。 ・各人の自覚。	・柵を設置する。	・ロープ付き浮き輪、注意看板、安全柵の設置。 ・水深は、20cm程度(25cmで小学生の死亡事故あり) ・柵より川側に、川に落ちた人が上れるスペースを設ける。	・可動式の柵を小段上に設置する。 ・低水護岸部に落ちた人が上れる階段を整備。 ・右岸は、3案の場合は梯子を付ける。
構造等	<スラローム状のコミュニティ道路にする。> ・民家や幼稚園前は、車道までの距離を確保する。	<直線もしくはクランク状にする。> ・川側に歩道を整備する。 ・歩道の嵩上げは不要。	<フラット型でスラローム形状にする。> ・スクールゾーン、シルバーゾーンとして安全対策を図る。 ・フラットで、歩車道は色分けする。 ・車の進入制限を行う。	・
植栽	・	<川側に高木のサクラと足元にミツバツツジを植える。>	<川側(パラペット側)に高木を植栽する。>	<樹種は、ヤマザクラ or ソメイヨシノにする。>
舗装	・	<和風(石材等)>	・	・



## ワークショップのスケジュール

- 第1回「大手川の事業や現況を理解し、課題を出そう！」(現地ウォッチングと室内作業)  
日時：平成18年3月19日(日曜日) 場所：宮津市中央公民館(みやづ歴史の館)
- 第2回「大手川の具体的なアイデアを出そう！」(アイデア出し:室内作業)  
日時：平成18年5月21日(日曜日) 場所：宮津市中央公民館(みやづ歴史の館)
- 第3回「プランについて考えよう！」(プランの検討:室内作業)  
日時：平成18年7月9日(日曜日) 場所：宮津市保健センター(宮津市字鶴賀)



お問い合わせ先 ▶ 〒626-0044 京都府宮津市字吉原 2586-2  
京都府丹後土木事務所 災害対策室 安田、坂井田  
TEL(0772)22-3243 FAX(0772)22-3250